

特定外来生物クビアカツヤ

カミキリに注意!

クビアカツヤカミキリは、サクラやウメ、モモなどの木に産卵し、幼虫が樹木の内部を食い荒らす外来昆虫です。

日本国内では、平成24年に愛知県で初めて成虫が確認され、年々生息域は拡大しています。

群馬県内では平成27年に館林市のサクラで、平成29年に県内東部地域のモモ、スモモ、ウメで、令和2年には県内中西部地域でも新たに確認され、周辺地域へ広がることが懸念されています。

平成30年1月に環境省の特定外来生物に指定され、飼育や販売等が禁止されています。生きたまま持ち運ぶことは違法となります。

【クビアカツヤカミキリの特徴】

中国大陸原産のカミキリムシ科の昆虫で、その名の通り、首（正確には胸部）が赤く体はつやつやした黒色です。体長は20〜40mmくらいの大型の昆虫です（図1）。

幼虫は樹木内で2〜3年かけて成長し、蛹になります。成虫は6月〜8月頃に発生し、樹に産卵します。



図1 クビアカツヤカミキリの成虫

【被害の様子】

孵化した幼虫は、樹に食入し、2年目の幼虫は驚くほど大量のフラス（木くずと糞が混ざったもの）を排出します（図2）。フラスは、かりんとう状のものからおがくず状のものなどいろいろなたいプがあり、幼虫の被害が進行すると、その木は枯死します。

【防除対策】

① 成虫を発見した場合

・被害の拡大を防ぐため、その場で駆除してください。

② フラスを発見した場合

- ・登録農薬を幼虫の食入孔にノズルで噴射し、駆除してください（表1）。
- ・フラスが出ている樹には、ネット（目合4mm以下の防鳥ネット）

ットなど）をかけて成虫の拡散を防ぎ、成虫を捕殺することが重要です。



図2 幼虫の食害で排出されたフラス



図3 幼虫の食害で枯れた木の断面

【被害樹への対応】

被害が進行すると、農薬が効きづらくなり完全な駆除が困難となります。また、枯れた樹は、倒木などで人がけがをするおそれがあり、クビアカツヤ

カミキリの発生源にもなってしまうため、伐採する必要があります。

表1 対象樹種に使用できる農薬

薬剤名	使用方法	もも類	小粒核果類
オリオン水剤40	散布	○	○
スプラサイド水剤	散布	○	○
アクタラ顆粒水剤	散布	○	○
ダントツ水剤	散布	○	○
モスピラン顆粒水剤	散布	○	○
ハチハチフロアブル	散布	○	
テツパン液剤	散布	○	
スプラサイドM	樹幹部及び主枝に散布	○	
ロビンフッド	樹幹・樹液の食入孔にノズルを差し込み噴射	○	○

(令和3年2月現在)

【情報提供のお願い】

身近な公園や並木のサクラ、モモやウメなどバラ科の樹木にフラスが出ていないか、株元を見てください。「怪しいな」と思った樹木には印を付けておき、フラスの排出が多くなる5月以降、丁寧に確認してください。

クビアカツヤカミキリの成虫を発見した場合は、その場で駆除し、渋川市環境政策課まで連絡してください。

(中部農業事務所 普及指導課
園芸指導係 平井一幸)